

～山田賞～



久保 孝文

略 歴

昭和50年10月20日生	
平成6年3月	香川県立高松高等学校卒業
平成7年4月	岡山大学医学部医学科入学
平成13年3月	同上 卒業
平成13年5月～8月	岡山大学医学部附属病院 第二外科 勤務
平成13年9月～15年8月	香川県立中央病院 外科 勤務
平成15年9月～17年3月	中町赤十字病院 外科 勤務
平成17年4月～19年3月	広島厚生連JA府中総合病院 外科 勤務
平成19年4月	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程入学
平成22年3月	同課程卒業（早期修了）
平成22年4月	香川県立中央病院 外科（医長、現職）

研究論文内容要旨

アスベスト曝露が原因となる悪性胸膜中皮腫（以下、中皮腫）は予後不良の疾患であり重大な社会問題となっている。しかしながら、中皮腫に対する早期診断・治療法は確立されておらず、その開発が急務である。

中皮腫は以前よりp53の変異が稀な疾患として知られている。中皮腫の癌化機構として、P53が転写調節因子として作用するmicroRNA34（miR-34）、特にmiR-34 b/cのメチル化と、発現低下が関与していることを本研究において解明した。細胞株では100%、原発腫瘍では85%の症例でメチル化を認め、中皮腫細胞におけるmiR-34b/cの強制発現では細胞増殖能・遊走能・浸潤能の低下を示した。また、miR-34 b/cアデノウイルスベクターによる抗腫瘍効果を実証した。

本研究の成果である、miR-34b/cの高頻度のメチル化は、バイオマーカーとして早期診断に応用できる可能性、また、miR-34b/cの強制発現による治療応用への可能性を示唆する。なお、本研究は掲載号のハイライトに選出されている。